

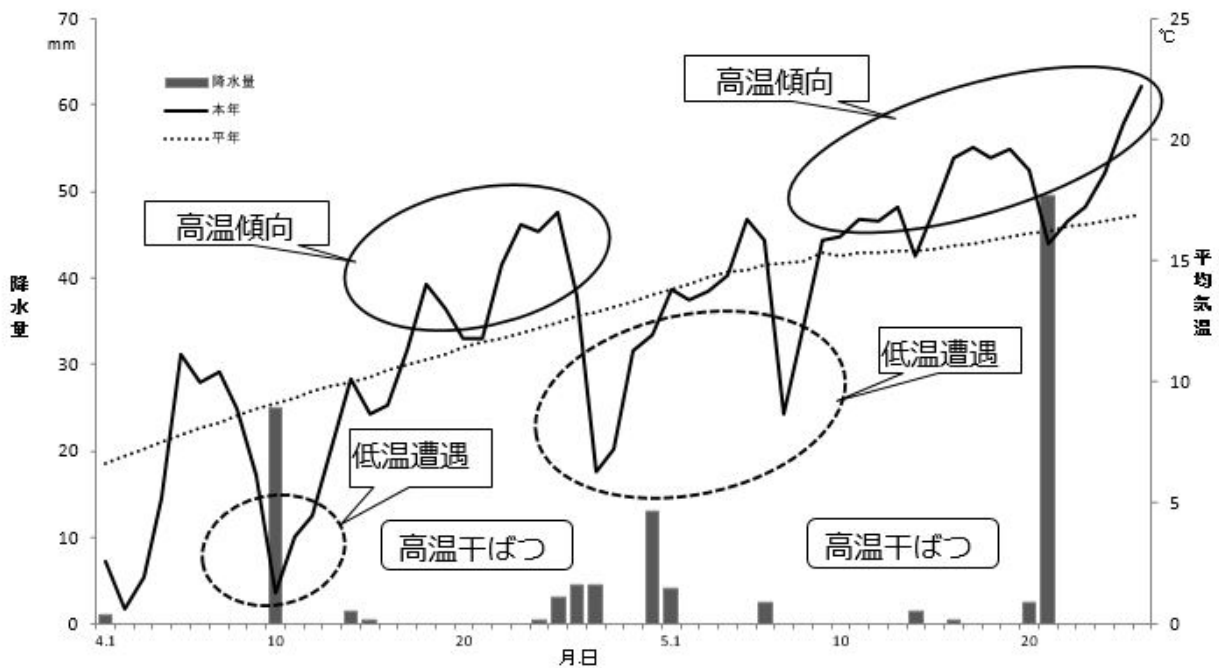
令和元年5月29日

農業協同組合米穀生産指導担当者様
全農長野生産事業部米穀課担当者様
全農長野中信事業所生産販売課米穀担当者様
関東農政局長野支局松本地域センター担当者様
長野県農業共済組合中信地域センター
松塩筑支所、安曇野支所担当者様

松本農業改良普及センター技術係作物担当

平成31(令和元)年 作物技術情報 第4号 (麦の生育状況・水田管理について) (5枚 送付)

平成31年 気象経過(穂高アメダス 4月1日~5月25日)現在



1 麦の生育状況について

○5月25日現在、島内品種試験圃(10月30日播種)の生育状況は、次のとおりです。

【大麦】

ファイバースノウ	現在	登熟後期		
		出穂期	5月1日	平年 4月30日(1日遅)
ホワイトファイバー	現在	登熟後期		
		出穂期	4月28日	

【小麦】

シラネコムギ	現在 登熟期				
	出穂期	5月 8日	平年5月 7日	(1日遅い)	
ゆめきらり	現在 登熟期				
	出穂期	5月 7日	平年5月 7日	(平年並)	
しゅんよう	現在 登熟期				
	出穂期	5月10日	平年5月 7日	(3日遅い)	
ゆめかおり	現在 登熟期				
	出穂期	5月 6日	平年5月 6日	(平年並)	
	※H30年「ゆめかおり」は出芽不良で参考値				

○現地における出穂状況は次のとおりです。

【大麦】 登熟後期（芒が黄化始め）

出穂始 4月24日頃～ 出穂期 4月26～4月28日頃～ 出穂揃 4月30日頃

【小麦】 登熟中期

出穂始 5月3日頃～ 出穂期 5月6日～5月9日頃

～ 出穂揃 5月12日頃

以上から、生育の中庸な圃場の現在の生育ステージは

大麦 登熟後期、小麦 登熟中期

生育進度は、大麦は平年並～1日早、小麦は平年並みと思われます。

(2) 麦の成熟状況について

○島内品種試験圃における過去の成熟期と、登熟積算気温からの大・小麦の成熟期の推定をお送りしますので、RC等施設稼働や収穫時期の目安にご活用ください。

○出穂後の気温は、前半がやや低温傾向、連休明け5月10日頃からは、高めに推移しています。大麦は6月6日頃から、小麦は6月22日頃から成熟期を迎えると思われますが、成熟期は今後の気象状況などで前後します。登熟期間中に気温が高く、降雨の少ない状況が続くと、予想より成熟が早まる可能性があります。湿害、寒害、干ばつを受けて根の生育の劣る圃場、播種遅れ等で生育が不足している圃場、極端なやせ地ではご注意ください。

松本農業改良普及センターのホームページに掲載した適期収穫チャートなどを参考に、圃場での成熟状況を確認し適期収穫をお願いします。

○「ゆめきらり」、「ゆめかおり」は穂の色が白い品種なので、成熟期になっても、穂の色は褐色になりませんので、この点ご注意ください。
刈り遅れると穂が黒ずみ、黒かび粒が発生するので、適期収穫をお願いします。

松本市島内 麦品種試験（奨励品種決定調査圃場）の歴年値

シュンライ

収穫年度	出穂期	成熟期	登熟日数	積算気温
H 1 4	4月21日	6月8日	48	779
H 1 5	4月30日	6月9日	40	676
H 1 6	4月23日	6月2日	40	647
H 1 7	4月29日	6月7日	39	629
H 1 8	5月4日	6月12日	39	661
H 1 9	5月1日	6月13日	43	735
H 2 0	4月28日	6月8日	41	656
H 2 1	4月26日	6月8日	43	686
H 2 2	4月28日	6月8日	41	688
H 2 3	5月3日	6月11日	39	641
H 2 4	5月1日	6月10日	40	634
H 2 5	5月6日	6月18日	43	810
H 2 6	5月3日	6月12日	40	694
H 2 7	4月28日	6月8日	41	728
H 2 8	4月20日	5月31日	41	690
H 2 9	4月28日	6月11日	44	736
H 3 0	5月1日	6月9日	39	686
H31(R1)	4月27日			
平年	4月29日	6月9日	41	690
平年差	2日早			

凍霜害

ファイバースノウ

収穫年度	出穂期	成熟期	登熟日数	積算気温
H 1 4	4月22日	6月12日	51	850
H 1 5	5月1日	6月10日	40	685
H 1 6	4月25日	6月10日	46	790
H 1 7	4月30日	6月11日	42	696
H 1 8	5月6日	6月15日	40	725
H 1 9	5月2日	6月14日	43	739
H 2 0	4月29日	6月9日	41	662
H 2 1	4月29日	6月10日	42	680
H 2 2	4月29日	6月9日	41	694
H 2 3	5月4日	6月12日	39	647
H 2 4	5月2日	6月11日	40	639
H 2 5	5月8日	6月19日	42	812
H 2 6	5月6日	6月14日	39	695
H 2 7	4月28日	6月8日	41	728
H 2 8	4月21日	6月2日	42	708
H 2 9	4月30日	6月12日	43	759
H 3 0	5月2日	6月11日	40	708
H31(R1)	5月1日			
平年	4月30日	6月11日	42	717
平年差	1日遅			

凍霜害

シラネコムギ

収穫年度	出穂期	成熟期	登熟日数	積算気温
H 1 4	5月3日	6月21日	49	869
H 1 5	5月9日	6月27日	49	918
H 1 6	5月3日	6月20日	48	881
H 1 7	5月5日	6月22日	48	857
H 1 8	5月9日	6月29日	51	950
H 1 9	5月7日	6月25日	49	881
H 2 0	5月5日	6月27日	53	912
H 2 1	5月6日	6月24日	49	877
H 2 2	5月6日	6月23日	48	885
H 2 3	5月12日	6月28日	47	870
H 2 4	5月9日	6月25日	47	814
H 2 5	5月12日	6月29日	48	949
H 2 6	5月12日	6月25日	44	830
H 2 7	5月6日	6月20日	45	825
H 2 8	5月1日	6月15日	45	830
H 2 9				
H 3 0	5月10日	6月22日	43	
H31(R1)	5月8日			
平年	5月7日	6月24日	48	877
平年差	1日遅			

凍霜害

しゅんよう

収穫年度	出穂期	成熟期	登熟日数	積算気温
H 1 5	5月10日	6月26日	47	884
H 1 6	5月4日	6月20日	47	864
H 1 7	5月5日	6月22日	48	857
H 1 8	5月9日	6月29日	51	950
H 1 9	5月7日	6月27日	51	926
H 2 0	5月5日	6月27日	53	912
H 2 1	5月7日	6月25日	49	886
H 2 2	5月6日	6月24日	49	905
H 2 3	5月12日	6月27日	46	845
H 2 4	5月9日	6月25日	47	814
H 2 5	5月12日	6月29日	48	949
H 2 6	5月12日	6月25日	44	830
H 2 7	5月6日	6月21日	46	843
H 2 8	4月29日	6月14日	46	833
H 2 9	5月10日	6月27日	48	937
H 3 0	5月10日	6月21日	42	
H31(R1)	5月10日			
平年	5月7日	6月24日	48	878
平年差	3日遅			

凍霜害

ゆめかおり

収穫年度	出穂期	成熟期	登熟日数	積算気温
H 1 9	5月7日	6月24日	48	861
H 2 0	5月6日	6月24日	49	833
H 2 1	5月4日	6月21日	48	838
H 2 2	5月4日	6月21日	48	885
H 2 3	5月11日	6月27日	47	859
H 2 4	5月7日	6月23日	47	817
H 2 5	5月11日	6月28日	48	944
H 2 6	5月12日	6月25日	44	830
H 2 7	5月4日	6月18日	45	819
H 2 8	4月25日	6月11日	47	826
H 2 9	5月9日	6月21日	43	832
H 3 0	5月12日	6月23日	42	
H31(R1)	5月6日			
平年	5月6日	6月22日	46	851
平年差				

凍霜害

ゆめきらり（東山48号）

収穫年度	出穂期	成熟期	登熟日数	積算気温
H 2 2	5月5日	6月20日	46	786
H 2 3	5月10日	6月26日	47	847
H 2 4	5月8日	6月24日	47	808
H 2 5	5月11日	6月29日	49	966
H 2 6	5月12日	6月25日	44	830
H 2 7	5月4日	6月19日	46	836
H 2 8	4月28日	6月12日	45	804
H 2 9	5月9日	6月21日	43	832
H 3 0	5月6日	6月18日	43	
H31(R1)	5月7日			
平年	5月7日	6月22日	46	840
平年差				

凍霜害

※H30出芽不良で参考値

2 水稲の本田初期の管理

田植え後、高温傾向で推移しています。活着は順調ですが、徒長した苗やムレ苗等で生育が弱った苗は、植傷みを受け、活着不良となりやすい状況ですので、活着促進のため水管理の徹底をお願いします。

気温が高いため、藻類・表層剥離の発生が目立ちます。除草剤による防除については「2019年 農作物病害虫・雑草防除基準」に記載されている除草剤をご使用ください。

また、生わら等の未分解の有機物が急激に分解を始めるために、水田の土壌中が強還元状態となり酸欠により、稲が根腐れを起こす場合があります。水田内を歩いてガスがわいているようなら、10日に一度の間隔で晴天日の日中に水を払って田面を空気にさらし、ガス抜きと酸素の供給を行ってください。

水管理が不十分で除草剤の効果が低下して雑草が残ったり、再発生する場合があります。特にヒエやホタルイは葉令が進んでから気が付く場合があります。このため除草剤を処理して7日～10日後には圃場状況を確認し、残草状況によっては、中期剤や後期剤の対応をお願いします。